

チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No. 48-23-1	自治体提示の地域課題名 図書館未来プラン実現に向けたアイデア	自治体名 兵庫県豊岡市
チームがつけたアイデア名(公開) (注2)	「自然と図書館それから私～自然との新しい読書スタイルを～」		

(注1) 地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名(公開)	帰ってきた TOYOOKA-FANS		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数(公開)	6名		
代表者(公開)	奥田 幸祐		
メンバー(公開)	河口 雄吾、宮下 誠生、岡野 晃大、甲斐 和里、小林 歩未		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
--	----------

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

「減少傾向にある市立図書館施設の利用者拡大」と「シーズン外の閑散とした観光地の有効活用」

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

高校生の読書量と不読者の割合

令和4年に実施された「第67回学校読書調査」（全国学校図書館協議会）によると、5月1か月間の平均読書冊数は、小学生13.2冊、中学生4.7冊、高校生1.6冊、不読者の割合は、小学生6.4%、中学生18.6%、高校生51.1%となっている。一見すると、中学生と高校生の読書量を比較すると減少しているが、平成13年度の高校生は平均読書冊数1.1冊、不読者の割合67%と、高校生の読書活動において改善傾向がみられる。

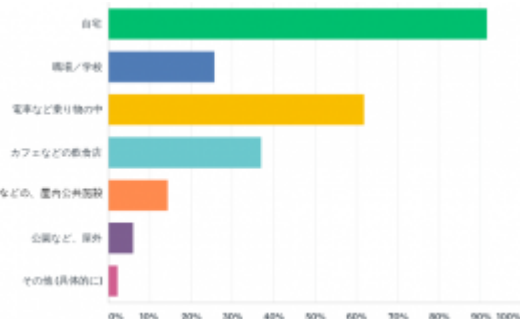
また、私たちの住む豊岡市においては、図書館施設入館者数は右のグラフのように年々減り続けている。人口減少が進む中、図書館の入館者数を増やすのではなく、本に触れる機会を増やし、本を通して人とのコミュニティが形成される「新しい読書スタイル」を提案する。



「みんなはどこで本を読むのか（読みたいのか）」

右のグラフ株式会社丸善ジュンク堂書店の「読書環境に関するアンケート調査（2019年）」によると、読書をする場所は自宅（91%以上）、電車などの乗り物の中（62%）であり、公園や屋外で読む人は多くない。

そこで、私たちは自然豊かな豊岡市だからこそ、自然の音をBGMにした『非日常の読書空間』を創り出すことができると考えた。



豊岡市の観光地が『非日常の読書空間』になる！

① 豊岡の四季を味わいながら本が読める。

～観光で訪れた旅先の環境にぴったりあった本を借りて、自然を感じながら観光地の読書体験～

春：「穏やかな陽気のもとで、竹野海岸の波の音を聞きながら読書」

夏：「但東農家民宿で懐かしい田舎の里帰り読書」

秋：「神鍋高原のキャンプ場で焚き木をしながら、ランプの明かりで読書」

冬：「城崎温泉でしか読めない文学作品を、温泉に浸かりながら読書」

② 豊岡の自然に関連した本があれば、学びのフィールドになる。

～親子でアプリや本を使って、草花観察や虫探し～

いきものコレクションアプリ『Biome』（株式会社バイオーム）を使ってゲーム感覚で名前や生態などの情報を得て、豊岡の自然に関連した本や図鑑で他の知識と関連付けながら学ぶことができる。

「自然内図書館」が「新しい読書スタイル」を提供する。

観光地に新しくできる「自然内図書館」で、本を読むために集まった人や、観光に来て本と出会った人が、本を媒介にしてつながり、新たなコミュニティが創出される。

<サービスの概要>

豊岡市図書館の「自然内図書館」で地域おこし協力隊が「本と人のレファレンスサービス」

<サービスの対象>

対象範囲は豊岡市民と観光客であるが、主なターゲットは以下の通りとする。

- ・豊岡市立図書館に行く機会が少ない人（豊岡市民）
- ・いつもとは違った環境で本を読みたい人（豊岡市民／観光客）
- ・ふらっと立ち寄った人（豊岡市民／観光客）
- ・本を読む予定ではなく、他の目的で観光地に来た人（豊岡市民／観光客）

<サービスの内容>（サービスが実現したときに市民と観光客が得られるメリット）

① 本の貸し借り、販売

- ・車に本を載せて観光地で「自然内図書館」を開催
- ・自宅から図書館が遠すぎて行きにくい人のための、本の貸出と返却窓口
- ・豊岡市民でない観光客が読んでみたいと思った本を貸出
（貸出に登録が必要、アプリを使って登録者や本の情報をデータ収集）
- ・豊岡市に関連する書籍の販売
（NPO 本と温泉：湊かなえ『城崎へかえる』、万城目学『城崎裁判』、『注釈・城の崎にて』など）

② 本と人のレファレンスサービス

- ・地域おこし協力隊がレファレンス役として、来館者に本を紹介
- ・地域住民と地域おこし協力隊の対話の機会と広報活動
- ・地域おこし協力隊が観光客のニーズを聞いて、観光地や飲食店の紹介
- ・本を通して人と人がつながる場

③ 物品レンタルサービス

- ・本を読むための椅子やベンチ（観光地にあったベンチ例：海→流木ベンチ、山→切り株ベンチなど）
- ・日傘や日焼け止めなどの紫外線対策
- ・虫よけスプレーや蚊取り線香などの虫対策

<豊岡市がこのサービスを実現するメリット>

- ・本を読まない人が減少し、図書館利用者数が増加することが見込まれる。
- ・増加した利用者数から得られる貸出データやアンケートなどから住民サービス向上のヒントを得る。
- ・地域おこし協力隊の活動の明確化（ここに行けばこの人に会える）

<サービスの運用時期>

- ・地域おこし協力隊による活動のため、不定期開催（月1のイベント的なものや、週1の定期的なもの）
- ・朝11時～夕方5時の時間帯で、晴れていて明るい時間のみ。

<サービスアプリの活用>

- ・専用アプリで利用者は本を選び、データ送信
（高齢者や機器の扱いが難しい人には、手伝いながら入力）
- ・入力したデータを地域おこし協力隊が確認

<本の返却と利用者のメリット>

- ・返却口を観光地最寄りのお土産屋に設置する。
- ・お土産屋で返却した利用者にはお土産品の割引クーポン付き

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<「五感で感じる自然内読書」を実現したい3つ理由>

- ①「図書館がもっと近くにあれば…」という利用者の声に応えたい。
- ② 地元にある観光地をシーズン外も活用することで、交流人口を増やしたい。
- ③「読書の需要」と「自然の観光」を結びつけたい。

①「図書館がもっと近くにあれば…」という利用者の声に応えたい。

豊岡市立図書館未来プラン『図書館利用者アンケート結果報告書』によると、「返却ポストを増やしてほしい」、「もっと近くで返却したい」、「近くに本を借りることができる場所がほしい」など、図書館が身近な場所にあって欲しいと思っている人がたくさんいることが分かった。これは、人口密度が低く交通の便がよくない田舎の地域の特性も関係している。このような利用者の意見から、図書館をもっと身近に感じることができると、豊岡市立図書館の5つの分館に「出張図書館機能」を持たせたい。地域住民が集まりやすい公民館などのコミュニティだけでなく、5つの分館がある地域にある観光地にも広げたい。「本を借りるため」に図書館を利用するのではなく、「出張図書館」があることによって「本を入口とした人のつながり」をねらう。

「自然内図書館」で『五感で感じる自然内読書』を実現することによって、利用者のニーズに答えるとともに、図書館を普段利用しない人や観光客を取り込み、図書館を中心としたコミュニティによって地域の人と図書館の距離を縮めたいと考えた。

本館（豊岡）	城崎分館	竹野分館	日高分館	出石分館	但東分館
 コウノトリ文化館で	 城崎温泉の下駄の音	 竹野海岸の波の音	 神鍋高原の鳥のさえずり	 出石永楽館で歴史を感じて	 田舎の農家民宿でのんびりと

② 地元にある観光地をシーズン外も活用することで、交流人口を増やしたい。

兵庫県北部に位置する豊岡市にある観光地は、自然に関連するレジャー施設が多い。

（竹野海岸、神鍋高原スキー場、コウノトリ、玄武洞、農家民宿、城崎温泉、出石永楽館など）

特に季節限定のレジャーに関連する施設は、天候に大きく左右されてしまい、冷夏や暖冬により安定して観光客を見込めない状況がある。

	平成 29(2017)年	平成 30 年(2018)	令和元(2019)年	令和 2(2020)年
海水浴客（竹野海岸など）	296（竹野のみ）	335	286	133
スキー客（神鍋高原）	134	89	23	108

参考：兵庫県観光客動態調査（H28～R2）（単位：千人）

さらに、次の表にまとめた兵庫県観光客動態調査の「四季別入込客数結果」によると、但馬地域は他の季節に比べ、春の入込客数が少ない。春の季節は、海水浴場利用可能期間外で、スキー・スノーボードの次の季節であるため、レジャーの要素が少ないと考えられる。降水量が多い兵庫県北部にあって、5月の春の暖かい季節や、10月の秋の過ごしやすい季節には降水量も少なく、気温も安定している。また、豊岡市立図書館の貸出点数を見ると、読書の季節と言われる秋に1日当たりの平均貸出点数は4つの季節の中で最も低い。

春にしかない『山鳥の鳴き声』や、日々変わらない『きれいな海』を感じながら、本を手にとって読書をしてみようという新しい読書スタイルを、自然豊かな豊岡から発信したい。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

2020年	2021年	2021年	2021年	2021年		気温（2021年）			2021年	2021年
入込客数	入館者数	貸出点数	入館者数	貸出点数		平均			日照時間	降水量
豊岡市	人数	1日当	人数	1日当		平均	最高	最低	(h)	(mm)
149千人 (7.6%)	42344 (25.4%)	平均 346	12,958	328	4月	11.1	17.2	5.7	179.2	223.0
			14,872	365	5月	18.6	25.0	13.6	185.8	96.0
			14,514	346	6月	23.0	28.8	18.6	172.3	268.5
788千人 (40.1%)	50143 (30.1%)	平均 380	17,432	384	7月	24.3	28.6	21.5	53.6	319.5
			18,718	402	8月	28.9	35.3	24.4	245.9	19.5
			13,993	354	9月	23.7	29.0	20.1	105.8	220.5
631千人 (32.1%)	40808 (24.5%)	平均 333	14,973	328	10月	16.1	21.3	12.4	118.8	96.5
			12,929	329	11月	12.3	18.1	8.2	111.4	114.5
			12,906	342	12月	5.0	9.7	2.0	77.4	341.0
397千人 (20.2%)	32926 (19.8%)	平均 344	11,618	335	1月	6.9	10.9	3.6	56.4	148.0
			9,055	358	2月	5.7	10.8	1.6	87.8	170.5
			12,253	340	3月	8.9	14.8	3.8	141.6	117.5

表「豊岡市立図書館の入館者数と1日当たり貸出点数（2021年度 豊岡市立図書館事務報告書（生涯学習課）」
「四季別観光入込客数（令和3年度 兵庫県観光客動態調査）」
「豊岡市の気候（令和3年版 豊岡市統計書（気象庁）」から作成

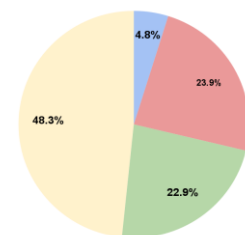
③「読書の需要」と「自然の観光」を結びつけたい。

次の表は「余暇活動の参加人口（レジャー白書2021より抜粋）」である。コロナ禍において在宅レジャーである「読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）」が好まれる傾向が見て取れる。コロナ禍以前の2018年データでは、「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」が好まれており、旅行と読書を結びつけたいと考えた。

	2018年	2019年	2020年	2021年
読書	4170万人 (3位)	4110万人 (3位)	3650万人 (2位)	3700万人 (1位)
動画鑑賞	—	3510万人 (8位)	3900万人 (1位)	3690万人 (2位)
音楽鑑賞	3470万人 (7位)	3540万人 (7位)	3410万人 (3位)	3420万人 (3位)
国内観光旅行	5430万人 (1位)	5400万人 (1位)	3390万人 (4位)	3230万人 (6位)

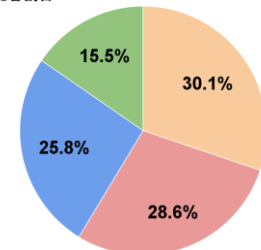
但馬への観光目的

- 温泉・健康
- 歴史文化
- 自然
- その他



季節別の観光客割合

- 秋
- 冬
- 夏
- 春



次に、令和3年度 兵庫県観光客動態調査書によると、上の円グラフ「目的別入込客数割合」からは、自然を目的に豊岡市へ観光している人が少ないこと、下の円グラフ「季節別の観光客割合」からは、観光業が春だけ盛んではないことがわかる。このデータを合わせることで、豊岡市の自然をもっと多くの人に興味を持ってもらうきっかけになると考えた。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体（誰にどのような協力を求めるのか）

本を含めた「モノ」の管理者である豊岡市立図書館が主体となる。

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

資源	要素	役割・理由
ヒト	図書館司書	貸出する本や返却された本の管理と来館者データの管理。 豊岡市立図書館の分館に依頼。すでに、イベントなどで出張図書館を実施しているところもあるため、全ての分館に広げる必要あり。
	地域おこし協力隊	地域おこし協力隊が「自然内図書館」のレファレンス役となり、来館者へ本の紹介や、移住者から見た豊岡市の魅力を観光客に伝える。 豊岡市の地域おこし協力隊への依頼。（月1回、週1回など） 地域おこし協力隊の活動拠点に図書館を加えるためには、受け入れ先の企業との折衝が必要。
	地元住民	「自然内図書館」を拠点に、人とつながることが好きな人を集める。 観光地で読んでほしい本（読みたい本）などを選書。 シーズン外の観光地の管理や環境整備、ゴミ拾い
モノ	本	「自然内図書館」を継続的に実施するために必要な量の本を、各分館から準備する。 ・観光地にあった本 30% （例、竹野海岸の「自然内図書館」は海に関連したものなど） ・地域住民が選んだ本 60% ・小さい子どもでも読めるような絵本 10%
	ガイドブック	観光客が観光地をより楽しめるように、各施設のガイドブックを準備
	ベンチ	観光地に溶け込むようなベンチを置く。 （例、海：流木で作ったベンチ、山：切り株のベンチなど）
	専用のアプリ	貸し出しの際の図書データや借りた人のデータを収集するためのアプリ加えて、自然を生かしたアプリ「Biome」との連携や本を中心とした豊岡市のマップがあればよい。
	iPad	運営者がコード読み取り入力支援に使用する。
	モバイルバッテリー	来館者が読書をしている間に充電ができる。
	防寒具	夜や肌寒い季節でも楽しんでもらいための毛布やヒーター

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

カネ	運搬費	本やベンチを運ぶ際の運搬費、お土産物に返却された本などの運搬費
	維持費	本やベンチなどをきれいに維持するための費用

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

概要	誰が	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月
① 設置場所の使用許可	豊岡市役所 図書館司書	■							
② 地域住民への協力要請 ベンチや本などの確保	地域おこし協力隊 豊岡市役所			■					
③ 出張図書館アプリの 開発	豊岡市役所 または企業に依頼			■					
④ 実施時期の検討	図書館 地域おこし協力隊			■					

① 設置場所の使用許可【0ヶ月～2ヶ月】

移動型図書館の設置場所を豊岡市役所・豊岡市立図書館職員の方とともに、観光協会にお願いする。全館で下記の通り1か所を選定し、環境整備へ向けての準備をする。

本館（豊岡）	城崎分館	竹野分館	日高分館	出石分館	但東分館
コウノトリ文化館	城崎温泉	竹野海岸	神鍋高原	出石永楽館	農家民宿

② 地域住民への協力要請とベンチや本などの確保【2ヶ月～4ヶ月】

使用許可をいただいた場所の近くに住む方に、観光地の自然の中で読んでほしい（読んでみたい）おすすめの本などを選書の協力を依頼する。また、観光地の景色を背景に合うベンチを準備して、インスタ映えするような場所を作る。

市役所職員ではなく地域おこし協力隊の方が中心となって地域コミュニティと連携することで、各地域コミュニティの既存のイベントと連携させることができ、住民を巻き込みやすくなる。

③ 「自然内図書館」アプリの開発【2ヶ月～7ヶ月】

本の情報や本を借りるためのアプリではなく、「自然内読書」ができるスポットや参加している人数や、本を返却できる土産物屋の場所、カフェやテイクアウトできるお店の紹介などもアプリに表示する。

また、豊岡市内で本を返却した人に対して、お土産物屋で使える割引クーポン券などもアプリで表示できるようにする。

参加するとポイントが加算されるシステムでリピーターを集め、何ポイント以上で〇〇のようなサービスも提供したい。

④ 「自然内図書館」実施時期の検討【2ヶ月～4ヶ月】

豊岡市立図書館の「出張図書館機能」を整えれば、すぐにも実施可能である。天候や日照時間、季節などによる読書の影響などを調査し、実施時期や場所、対策などを検討したい。

「自然内読書」に参加した人の感想が口コミやSNSで広がっていき、豊岡市に訪れた観光客のアクティビティの1つとして認知されることを期待したい。